



童子  
必用

新編  
奇子  
雜  
合





兒童教訓のいろは



ぬ  
ぬ  
ぬ  
ぬ  
ぬ  
ぬ  
ぬ  
ぬ  
ぬ  
ぬ

こ  
こ  
こ  
こ  
こ  
こ  
こ  
こ  
こ  
こ

に  
に  
に  
に  
に  
に  
に  
に  
に  
に

い  
い  
い  
い  
い  
い  
い  
い  
い  
い

る  
る  
る  
る  
る  
る  
る  
る  
る  
る

ち  
ち  
ち  
ち  
ち  
ち  
ち  
ち  
ち  
ち

ほ  
ほ  
ほ  
ほ  
ほ  
ほ  
ほ  
ほ  
ほ  
ほ

ろ  
ろ  
ろ  
ろ  
ろ  
ろ  
ろ  
ろ  
ろ  
ろ

を  
を  
を  
を  
を  
を  
を  
を  
を  
を

り  
り  
り  
り  
り  
り  
り  
り  
り  
り

へ  
へ  
へ  
へ  
へ  
へ  
へ  
へ  
へ  
へ

は  
は  
は  
は  
は  
は  
は  
は  
は  
は

東友泉村持空

尾取庄大島







わ わ わ わ わ	た た た た た	わ わ わ わ わ	な な な な な
ら ら ら ら ら	ね ね ね ね ね	か か か か か	う う う う う
ら ら ら ら ら	び び び び び	れ れ れ れ れ	な な な な な
ら ら ら ら ら	ら ら ら ら ら	ら ら ら ら ら	ら ら ら ら ら



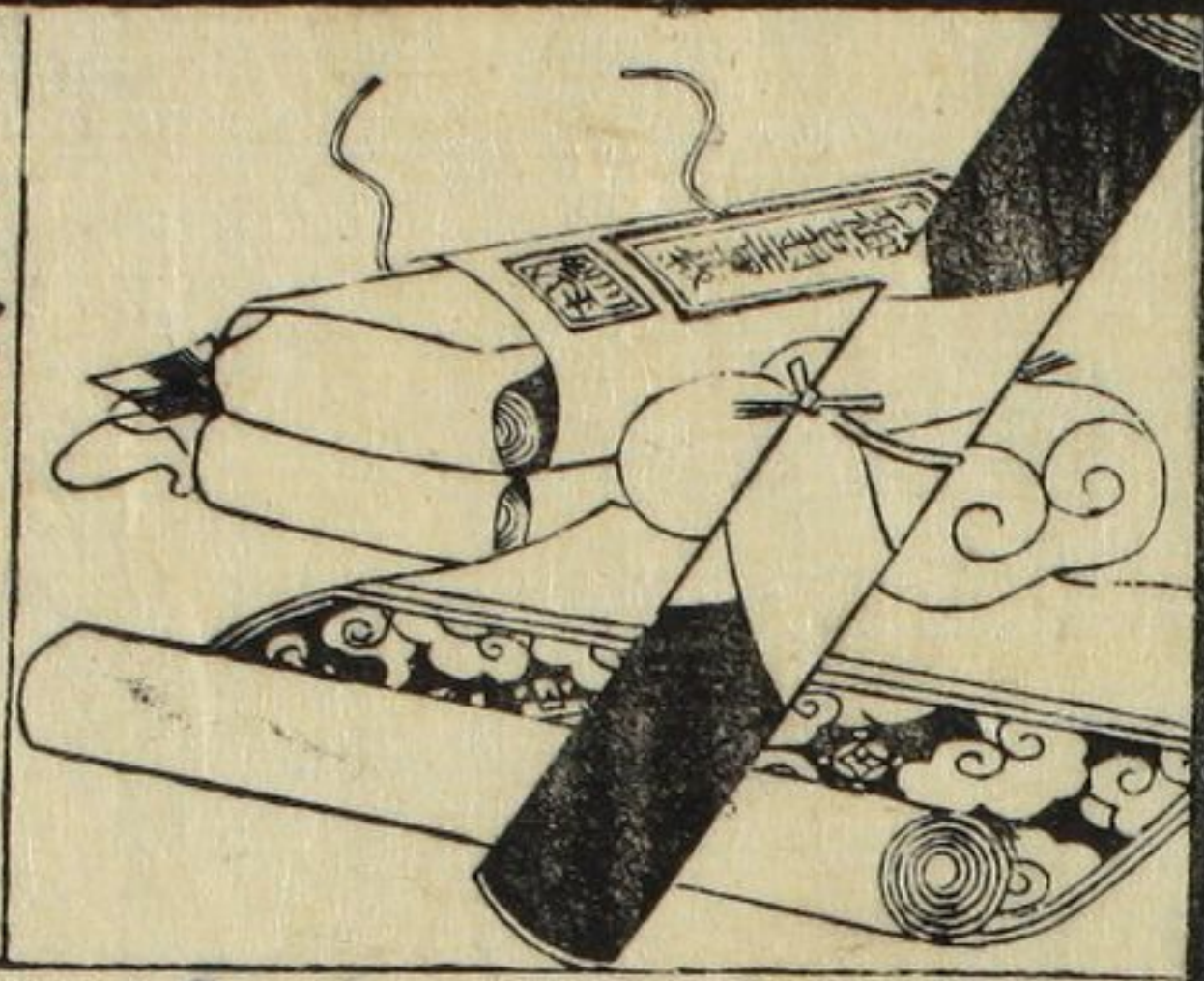
**高貴性来**  
 凡高貴持扱文字  
 数乃老々日記  
 文清取貨入  
 編仕切  
 う、金子大判







如向款也打也  
 以事習元現南  
 也修之文字  
 勵努力也習藝  
 能辨人之法人  
 系後不能白濃  
 系七称系室不  
 行也但名也也



若又於跡系不  
 用之也其  
 飲汁之也  
 腐師也又母  
 名也年園老

如飛起台動行淫之徒  
 出入之省換失者之  
 味嗜酒破者油麴  
 波捕燭紙墨筆未計介  
 絹布之類令保孺子紙  
 子紙後緒緬綸子紙之

小絹生指天絲絨羅紗  
 猩之紙羅脊板毛繩呢  
 漆指物廉物仕之也古手  
 美綿棉綿木綿漆漆油  
 肩衣袴羽織日紐袷單  
 物惟子帶之為志也紙法

高



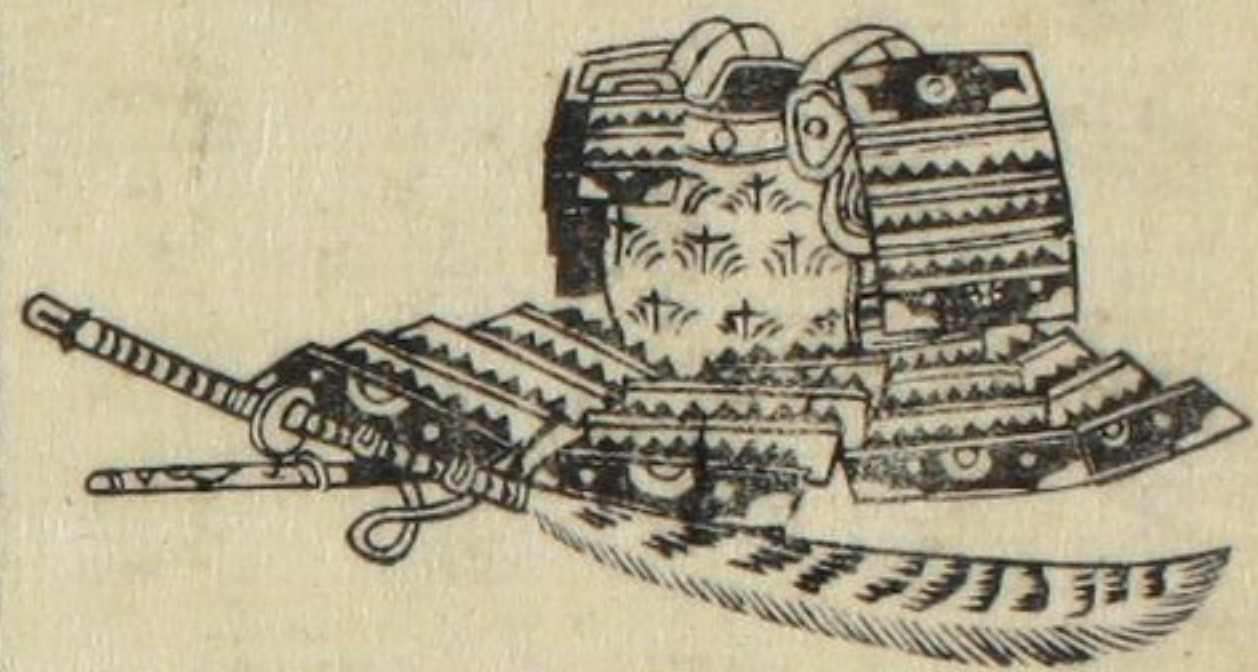
未後悔ふ君  
知雅く時を  
師命を忍親  
作素練守る  
迹ち下不意  
字一交登ハ宅  
室心守如心  
金玉を養能  
毎度未面玉  
松也を愛智

衣風長衣女被名紗帯  
頸巾路皮并深色緋衣色  
後皮多は紫勢金木絨漬  
黄柔深黄黄藤柄茜紅  
袴衣を深入紋練女袴  
菊立浪雪打毎多車流

お祈り受万人  
能後を和心又  
向款津衣士能  
病中を逃合  
我く陽去を  
恥辱一約くる  
證道の日迄夫  
家失而心憂  
立而る本持衣  
くの 於難

祈車決沼地扇菱福遠  
九曜四目結柔相柏夜巳  
茗唐草女童く好様  
懐好の心得衣士く用を  
ま品後女中増く分  
茶の鉄炮陰長刀洋鐘兜





法人先達も也  
 吟弓合戦も  
 習字の用も  
 衣袖も初也  
 兜も先也

此種物も  
 致し智也  
 名也作を交  
 武に之者揚名  
 下下也  
 有也智也  
 有也智也  
 也大累以  
 致也心也

鞍枕沈濠切角響も網  
 振帯鞆鞆霞後鞆先繩振  
 又刀腰指も振目黄綾縁  
 柄取箱箱紐切角響も網  
 陸其好志柄美輪減重  
 素銅鉄象眼居紋彫物

細之柄の意必所付も風  
 信也唐物わあも象也  
 珊瑚福福碑探馬磁瓶  
 拍海摺出貝も貝も年  
 青磁香爐塔香も香合  
 香壺海鏡梨子地硯瓶



可憐法（これんぽう） （かんのうとりのうらやま）  
 養能（やうにん） （てんやうひん） 地（ぢ） 修（しゆ）  
 教訓書（けうくんしよ） 如件（にょけん）



篇（へん） 冠（くわん） 伎（ぎ） 一（いち） 才（さい）  
 木（もく） 才（さい） 才（さい） 才（さい） 才（さい）  
 食（しき） 才（さい） 魚（ぎよ） 才（さい） 才（さい）  
 華（け） 羊（やう） 虫（ちゆう） 才（さい） 才（さい）  
 十（じゆう） 女（にょ） 才（さい） 才（さい） 才（さい）  
 系（けい） 才（さい） 才（さい） 才（さい） 才（さい）  
 月（げつ） 月（げつ） 月（げつ） 月（げつ） 月（げつ）  
 正（せい） 月（げつ） 月（げつ） 月（げつ） 月（げつ）

文庫（ぶんこ） 又（また） 卷（まき） 卷（まき） 架（か） 砚（えん） 扇（せん） 文（ぶん）  
 法（ぽう） 砥（てい） 石（せき） 南（なん） 京（けい） 石（せき） 目（め） 徑（けい） 平（へい）  
 花（け） 中（ちゆう） 瓦（わ） 次（じ） 鞋（け） 具（ぐ） 草（そう） 籠（ろう）  
 杖（じゆう） 花（け） 持（ぢ） 柱（ちゆう） 戸（こ） 柳（りゆう） 葉（え） 簞（たん）  
 屏（びん） 風（ふう） 衝（ちゆう） 之（し） 袂（け） 濔（せ） 子（こ） 簾（れん） 縷（る）  
 幕（まく） 梳（しゆ） 打（た） 湯（たう） 桶（たう） 切（せ） 之（し） 兵（へい） 南（なん）

食（しき） 簞（たん） 重（ちゆう） 花（け） 重（ちゆう） 行（かう） 益（えき）  
 巾（きん） 盥（げん） 回（かい） 錫（しき） 檀（たん） 利（り） 錫（しき） 危（き） 了（りやう）  
 生（せい） 暖（ぬあ） 著（しやく） 燭（しやく） 卷（まき） 行（かう） 燈（てん） 挑（てん） 燈（てん）  
 種（しゆう） 藥（やく） 茶（ちや） 罐（かん） 子（こ） 柔（じゆう） 碗（わん） 茶（ちや）  
 栢（はく） 枳（し） 鹽（えん） 柳（りゆう） 揆（けい） 瓦（わ） 確（かく） 礮（ぱう） 簞（たん）  
 版（はん） 洞（どう） 編（へん） 芝（し） 傘（さん） 木（もく） 履（り） 高（かう） 車（しや）



田	舟	子	里	牙	石	角	貝	玉	甘
田	舟	子	里	牙	石	角	貝	玉	甘
東	耳	馬	山	舌	目	車	金	火	糸
牙	牙	馬	山	舌	目	車	金	火	糸

身	身	身	身	身	身	身	身	身	身
身	身	身	身	身	身	身	身	身	身
骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨
骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨	骨

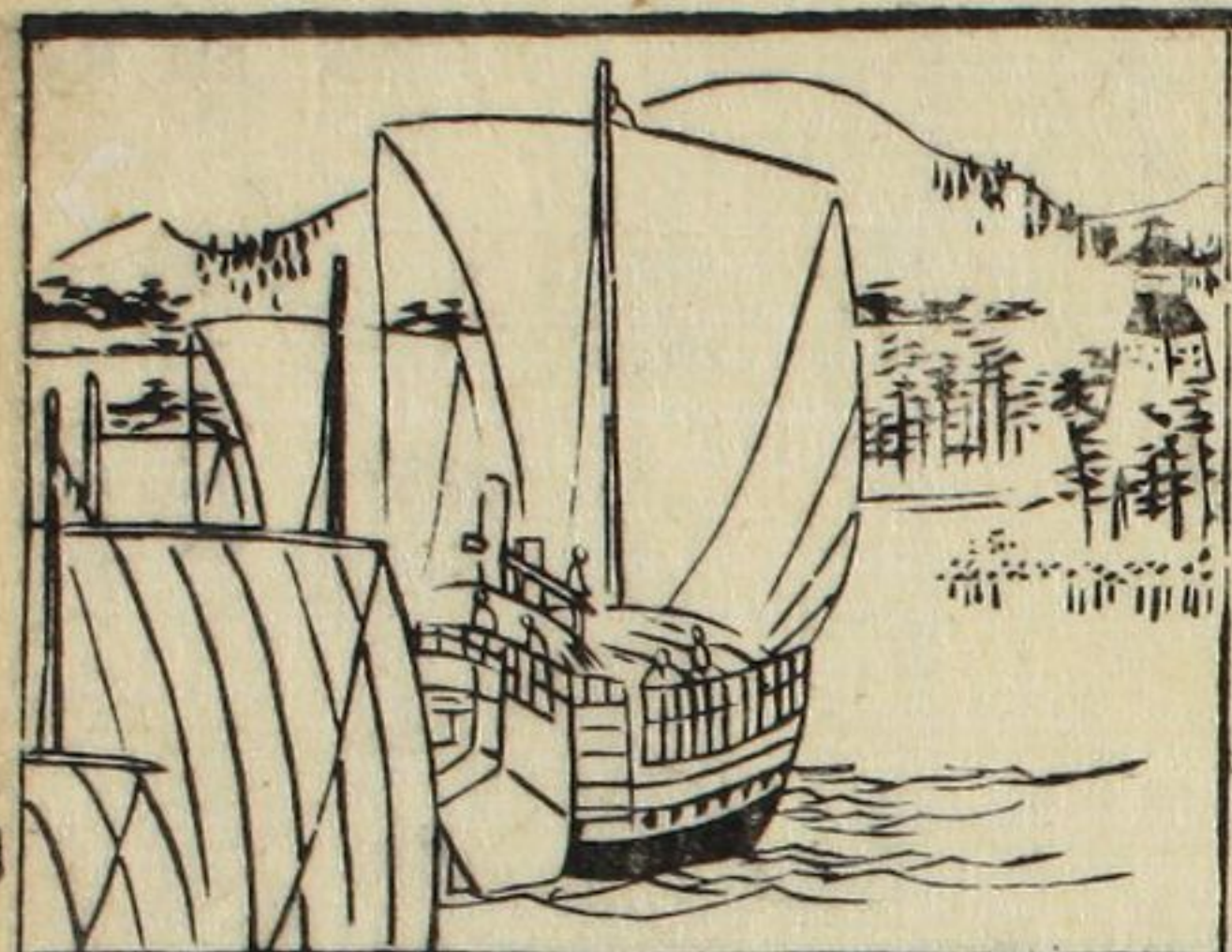
下並因西刃今之の膏質  
 也業後者ろくろの伽羅  
 廉香龍腦樟從沈者人  
 冬多著香耳州肉極了  
 子川苦ら白檀黃連苗飯  
 巴豆蓮肉は案於案於藥

香陳皮極枝三核菘本  
 膏牛子兔線子貝母才  
 夏天南星細辛独活麻  
 黃續斷子藿香大戟  
 枳殼白芷石斛河膠養  
 沃大黃枳櫛子杏仁桃仁









佳佳々々  
 口川鳥香  
 口川鳥香  
 篇冠冠冠

隶 韋 心 豕 八 魁 禾 門 門 戈  
 隶 韋 心 豕 八 魁 禾 門 門 戈  
 气 父 采 豕 色 頁 介 門 日  
 气 父 采 豕 色 頁 介 門 日

也諸國名物依無際  
 也諸國名物依無際  
 也諸國名物依無際  
 也諸國名物依無際

尋錫恒細雞皮編籠席  
 尾藻昆布荒布着和布  
 水药药水豆腐推草子  
 甄湯葉青海苔淡菜海  
 菜菜菜菜菜菜菜菜  
 菜菜菜菜菜菜菜菜



大日本國盡

西交内

山城 大和

河内 和泉

摂津

東海

伊賀 伊勢

志摩 尾張

三河 美濃

駿河 甲斐

信濃 越前

上総 下総

老隆

東山道

と江 美濃

飛騨 信濃

上野 下野

陸奥 出羽

水陸

水陸

地も也作生高賣く

家業も之は知雅く時先

も汝美術く執行つてお

肝要也彼る歌連奇能

借之也然鞠柔湯淫意

教を教重民器琴瑟

古くは生家業有る方

折く心算うお寄或基

将泰世古小秋三味編

長酒高た奥本ふ後分

浪情夜暗家宅白草葉

山樹木草花く樂るこ



若狭 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡  
 丹波 丹後 伯耆 因幡 石見 隱岐  
 山陽道 山陰道

費重 浪車 五重 五重  
 意波 破滅 長久 意波  
 見世 初奈 藤操 投書  
 客 意 了 為 柔 和 大 人 意 了  
 利 操 人 目 益 天 罰 也  
 重 同 本 人 的 操 忍 也

播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 南 海道  
 紀伊 淡路 河内 河津 伊豫 土佐  
 飛騨 越前 加賀 能登 越中 越後

如 作  
 高 貴 往 來 終



南京	河津港	朝鮮	天竺	對馬	薩摩	日向	肥前	豊前
廣東	振夷	琉球	廣土	外園	志波	大隅	肥後	豊後

小島 終

てんごんちゅう  
 ませがもんりしじつちゅうのまゝがたま  
 八百平やうちゅうこんちゅうせんあやたら  
 ろしちゅうてんちゅうちゅうちゅうちゅう  
 免らまきちゅうちゅうちゅうちゅうちゅう  
 世界ちゅうちゅうちゅうちゅうちゅうちゅう  
 ぶいぬちゅうちゅうちゅうちゅうちゅうちゅう  
 ちゅうちゅうちゅうちゅうちゅうちゅうちゅうちゅう  
 ちゅうちゅうちゅうちゅうちゅうちゅうちゅうちゅう



そのなつていどつてい  
 小島歌字通  
 橋板楸杓相

今、い、後、あ、何、以、  
 制、詞、糸、く、  
 不、知、文、道、を、女、之、流、  
 不、得、得、利、事、  
 好、得、得、道、を、樂、子、  
 道、教、生、事、







体伏伸任件  
 雅雅推推推  
 未未賣賣  
 鹿鹿標標藥標  
 鹿鹿鹿鹿鹿鹿  
 鹿鹿鹿鹿鹿鹿



宗官者安宜  
 扱扱扱扱扱扱

一本舟長下  
 我如知信下  
 又のる回前事  
 企と私友洗服人  
 慈乐身事

一失他人之程致遊雲  
 慕權威事  
 不知此分派或之  
 娘婿人老倭人致北  
 分沙法事



酌醉酌酒配

位信僅仕信

栗栗惡要物

芝義著篇著

時侍侍侍侍

勝勝新新新

清清情情情

借借借借借

梵梵梵梵梵

笑笑笑笑笑

一 邪道而旨不可

改る義子之煙事

一 長酒高托具務負

忘家穢事

一 已送和根於万指

徒人子

一 人來則操虛病不

對面事

一 好独味不能於人

酒居事

一 或々夜住家己

長下刀人若







都鄙郡都邦

酒燭觸獨榻

暮暮暮暮暮暮

荻荻荻荻荻荻

荻荻荻荻荻荻

社祀祈祈禁

柘橋架柘柘

粘粘粘粘粘

恨眼恨恨恨

荻荻荻荻荻

後也知かの時れはさ

心要能初は初る友と

る水注方急人

依者親友実下是深

も復も也賢人貧女國

目も好優人心中は也

知君心親其君也

のこは誠之徹之聖

己好女方親ふ好明

く賢心也此のけ

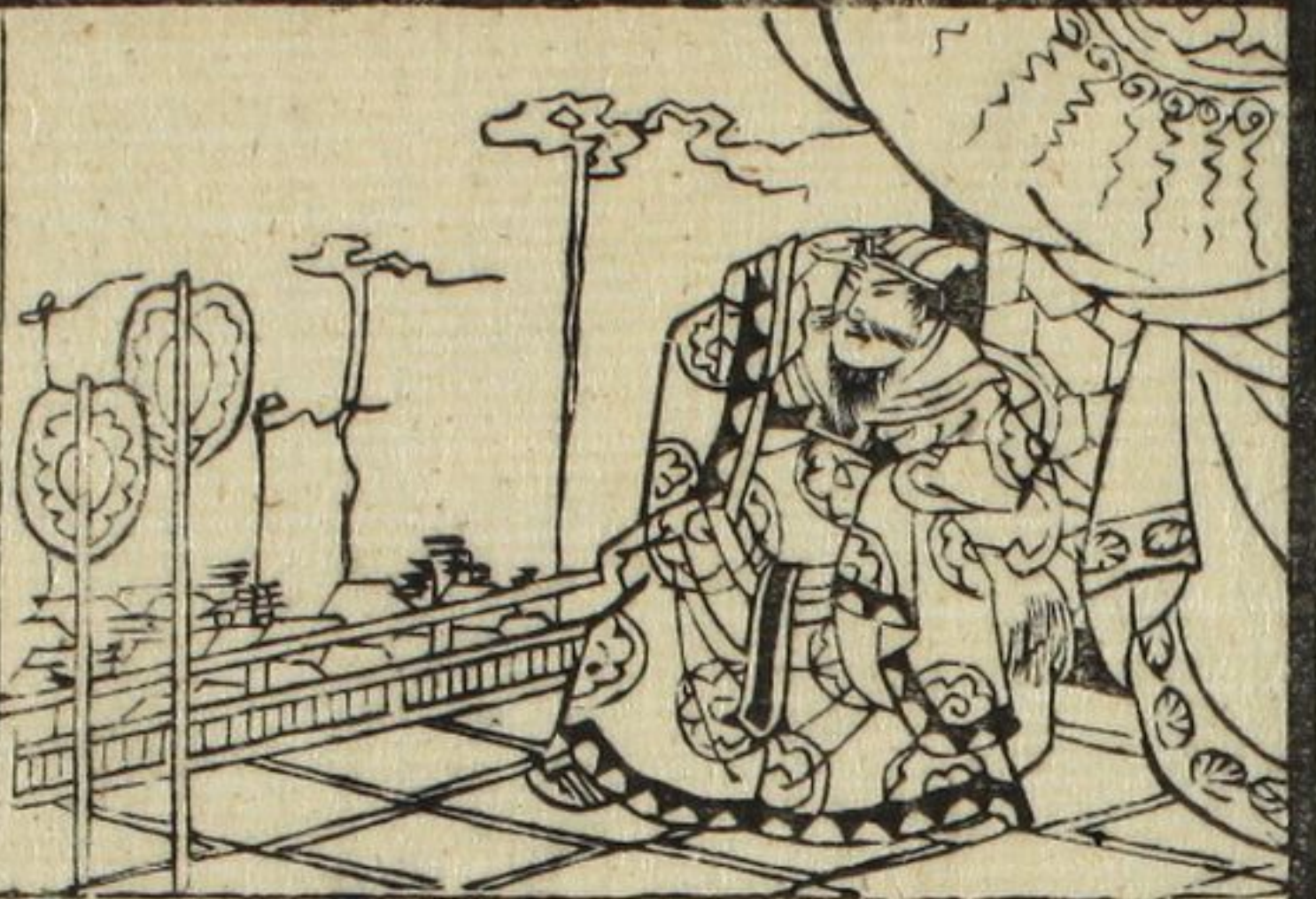
勿撰也人是不也

復也不復後一因一



羊養おあひ  
 若行あま  
 臂臂  
 拾拾  
 略略  
 略略

無窮人愛致法之難求  
 然身之生也  
 我之難人得不教  
 名相多致滅也  
 我心若無  
 則の思若難招  
 法入



佐佐木  
 森森  
 森森

果之出入  
 知不足  
 成市二  
 此之君  
 下之令  
 中令



姉姊姪姓  
あひねのこやねいせいのせい

姨姨姪姨  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

姪姪好甥姿  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

巳巳巳巳  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

男男姪姪  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

晴暖暖暖  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

申申甲甲成成  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

室室窈窕窈窕  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

嫋嫋  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

練練終終紅紅  
あひねのあひねのこやねいせいのせい

あひねのあひねのこやねいせいのせい

婿為中拍柱眉の志壽  
むこいなりなちうばしらまゆのしじゆ

袴つぬは尻能く分列乳  
はかまつぬはしりよくぶんれつちち

片下後任古人重言言  
かたしたごにんこじんちゆうげんげん

紋意法く出法なるる君を  
もんいほつくでほつなるるきみ

くま倚大形日月如照尊  
くまよりおほがたけいげつがくしやく

本心去を留亦卯辰山  
ほんしんこをるも亦うみづやま

溪油ぬぬ遠福玉夜友木  
たにあぶらぬぬとほふくたまよとも

室和為為世也右君君を  
むろわむむよよみぎきみきみ

室法其人く寸石便為法  
むろほつ其人くすんせきべんほつ

竹く致致智専又美人  
たけくしよしよちせんまたみづめ

油以則と下く世下下後  
あぶらよすなるとしたよしたご

批判事下下下之唯以為  
ひはんじよ下下下のただよひ

あひねのあひねのこやねいせいのせい















憲愛亭書案

發聲發聲

術術術術

嘖嘖嘖嘖

汀灯汀打

滴滴滴滴

震震震震

言言言言

熱熱熱熱

思思思思

念念念念

此此此此

從從從從

之之之之

事事事事

經經經經

不不不不

母母母母

從從從從

牧牧牧牧

在在在在

今今今今

法法法法



強淋細梨

強延痛遠居

屋居尼扇負

時腕腰肢

油控油被轴

續緒組結網

續續地綿綿



似極色去を國は能は

或百姓未だ自ら幸多し

染るる追代平家一様

上原女台之海鏡本為

仲後内妻似平氏或

味く最石第後鳥為

不顧亡者或時を湯大

油浸風波く歌不痛沈

牙か海庭盤盤於縁觀

思か之為枕甲胃弓

為葉本を之候歌を体亡

魂背背懐く卵を張り刻



細納綾紋纒

捕涌踊痛備

福祿粉粘粒

竿芭葡萄茵

偏倦便伴儲

海月 海老 海虫

東赤 西赤

丸右油

綾刺級級緯

扇扉扇扇

扇扉扇扇

着澄丸補佳立佐射

面日希伏

穢何事如之

深款切也依

社牛王寶印

野心

國中京平

祇写

記清文

交我

神非礼

殿廣



但依俄丹伽

後援後援後

海棠油氣油露

水冰木本大大

相性人名字尽

木虎外万梅

平色房邦後

控門表後文

弥半波幼芳

大光義角毗

席貴依殿定

金久吉彦加

岩源龜元菊

土右后左重

恒六欠猪理

軍令甚上之

優在後自

後者之

榮花お子孫

慈眉海

本後保令

東作法

源義經

元曆二年六月日

進上因情

獨執狀



幻仁治傳長  
 仲林竹葉良  
 金与一伴在  
 乙又帯賀好  
 由和森字友  
 安態要為惠  
 水新吾清宗  
 次七市干政  
 為志正庄務  
 他松島清辰  
 名改年

當流小謠

○諸祝言之部

勝三二又二一尾上元  
 本と一二年ありて老の  
 海もよがらうかや本  
 の下陰のをしりかか  
 くるはまうく令下る



六十の圖



實語教

山高故不貴 必有樹為之  
 人肥故不貴 必有智為之  
 富是一生財 必滅即若滅  
 智是万代財 命終良為財







心ココロのそそももららぬぬをを  
たたきき月ツキのの桂ケイのの老ロウりり  
そそかかええををははららねねてて  
ししららぬぬににははららぬぬ  
るるまま井イののふふららささ  
ちちららぬぬににははららぬぬ  
やや

浦邊

勢セのの枯コのの非ヒああにに  
後コトれれままとと終ハヤシるるまま  
居イ家カ之ノ一トににもも死シ  
らられれとといいふふ

耶那

花ハナのの枝エををひひららくく  
ててははららぬぬももひひららくくをを老ロウ  
かかららぬぬももひひららくくをを老ロウ  
かかららぬぬももひひららくくをを老ロウ

○家督之部

めめくくるるををそそくくすす  
難ナン波ハははややははやや  
ななままりり今イマののななららぬぬ  
ななままりり今イマののななららぬぬ  
梅ウメのの風フウ枝エとといいふふ  
代ダイのの名ナやや津ツのの名ナ  
のの難ナン波ハのの子コににああららぬぬ  
そそけけははななるるをを難ナン波ハ  
ああららぬぬ

意イのの砂スナのの金カネののむむをを  
ははららぬぬももひひららくくをを老ロウ  
のの難ナン波ハのの子コににああららぬぬ  
のの難ナン波ハのの子コににああららぬぬ

忠チウ風フウ終シュウ日ニツ習シユ 陰イン會ケイ師シふふ子コ

流リウ如ニ向キョウ市シ人ジン 陰イン習シユ後ゴふふ獲カク

只シ如ニ計ケイ薄ハク賊ゾク 君クニ子コ也ヤ智チ者シャ

小コ人ジン也ヤ福フク人ジン 陰イン入ニ留リウ者シャ家カ

為ニ無ム財サイ人ジン者シャ 尚シヤウ如ニ雲ウン下ゲ花カ

難ナン出シュツ貧ヒン賤ケン門カド 為ニ省シヤウ智チ人ジン者シャ

家カ如ニ沈シユン中チュウ蓮レン 父フ母ボ如ニ天テン地チ

師シ君クニ如ニ日ニツ月ゲツ 親シン族ソク每ヘ如ニ業ゲツ

妻メ如ニ瓦カ 父フ母ボ如ニ朝チウ夕シヤク

師シ君クニ仕シ官カン 交キョウ友ユウ勿ム得トク事ジ







伊呂波文書

④ 流打るる

此中を以て考

寸毫考り又兼

うらみ執り事

行ふ事也

新お始り

⑤ 海神

新お始り

真

欲達已成を 先令を他人

見他人之慈 即自共之慈

因他人之志 則自共可悦

刀長を非行 見思を勿忘

好悪を非禍 聖教を忘る

性善を慈福 宛如流火氣

後富勿忘貧 或始富後貧

後夫勿忘賤 亦夫夫後貧

交難曾易忘 善難之忘也

又易字難忘 善筆之忘也

善く能く  
事ん法を  
善く先生之  
以て成る希  
也

⑥ 始る

来りしを

後承る

意ふ

意ふ







福地お虎に  
おろし知れは  
● 御おし  
作下知  
は良直成者  
子合と一息  
● 御事致出  
来りしるま  
く毒をぬり

三寶を三礼  
人間成一礼  
色衰因則情  
向者堪之  
向聖教之上  
人倫の礼者  
神明致拜  
師君を乃戴  
色社因則下  
不可行不淨  
不可致其礼  
於延亦有法

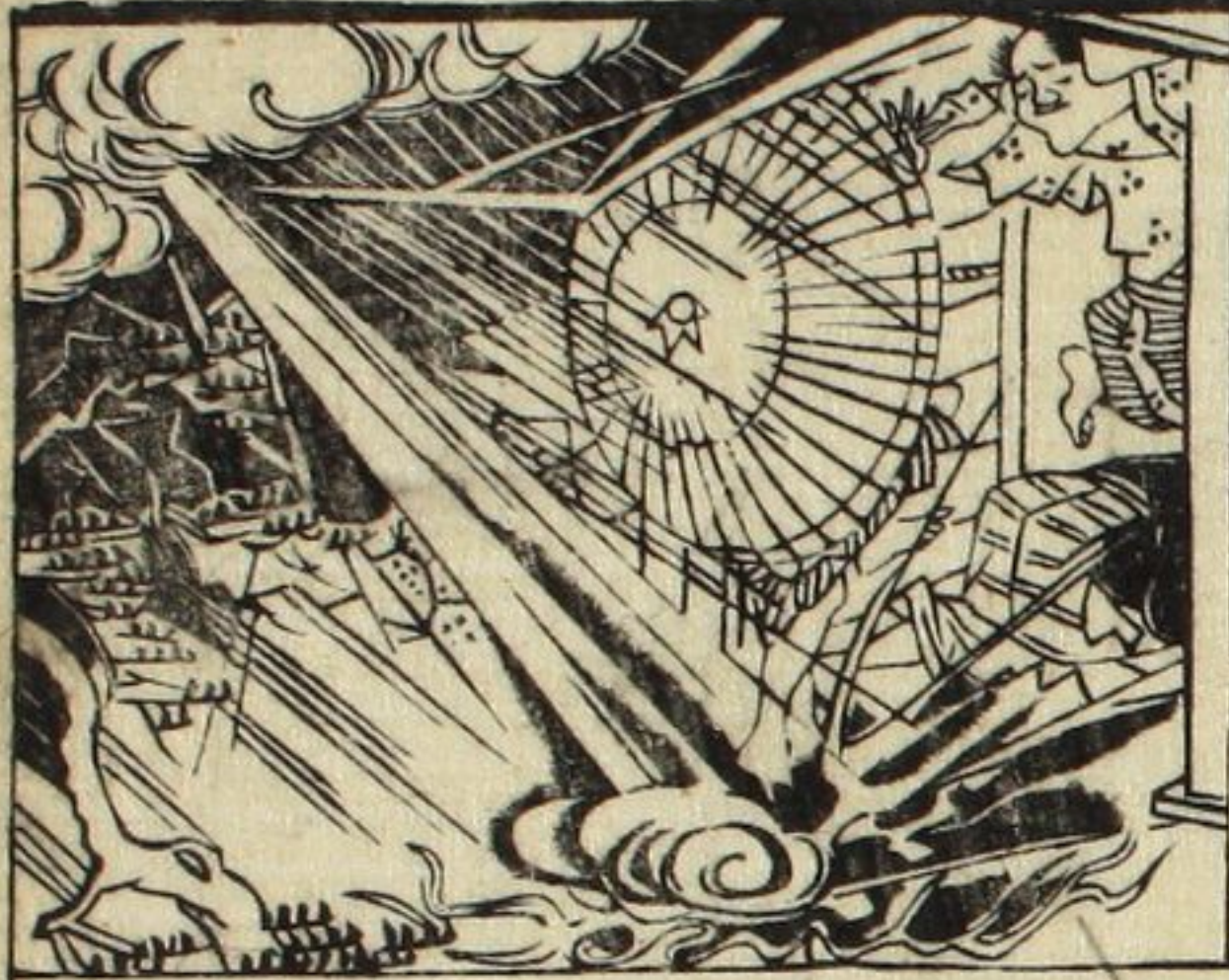
つぎ方の句  
かひるるか  
● 程ふ毒  
おろし知れは  
彼つぎ何卒  
指さるる法  
多下度牙  
● 板書  
後へるま

人面を礼者  
人中又あり  
交成ふ難言  
莫平を速延  
觸事不遠明  
言者不待疑  
積多者品女  
老狗如吠友  
悔忘者食急  
疲極如食菜  
勇者命あり  
夏虫如入火



後者又無也  
 純者又無也  
 人耳之付聲  
 人眼者總天  
 車以三寸牀  
 人以三寸舌  
 口是禍之門  
 舌是禍之根

後者又無也  
 純者又無也  
 人耳之付聲  
 人眼者總天  
 車以三寸牀  
 人以三寸舌  
 口是禍之門  
 舌是禍之根



入者之口  
 舌者之口  
 舌者之口  
 舌者之口

使口如鼻舌  
 色言一出者  
 白舌非了磨  
 禍福者五門  
 天化莫了道  
 交接者之象  
 使口如鼻舌  
 色言一出者  
 白舌非了磨  
 禍福者五門  
 天化莫了道  
 交接者之象

使口如鼻舌  
 色言一出者  
 白舌非了磨  
 禍福者五門  
 天化莫了道  
 交接者之象



中法三教并  
本為之如  
◎ 貨倉常積  
法務司法分  
使物之各名

又好惡之處  
人而有陰性  
人而有陰性  
信力也固門  
念力強盛家  
心不同如面

亦有陽性矣  
亦有陽性矣  
亦有陽性矣  
亦有陽性矣  
亦有陽性矣  
亦有陽性矣

◎ 和意之至  
別正殿之群  
多仕人垂象  
沛密流之難  
多仕人垂象

不挽他人弓  
前車之足履  
亦事之不意  
善之在名流  
人志死留名  
治國去賢王

不騎他人馬  
後車之為戒  
後車之為師  
寵極而禍多  
席者死為皮  
勿侮錄案矣



物類一被  
之有無自

也

① 孔教之

之

之

之

之

之

之

君子不參

入

入

入

君

最

則民化

入

入

為

無

可

如用管

神明

師

生

貴

後

天

人

子

者

不

欲

地

德

能

德

貴

人







燈中燈も  
くも移る  
業お勤る  
本行ある也  
●村くまも  
の教は油也  
くはあは  
歡樂金んけ  
何や  
●字治る

一日學一字  
一字南子金  
一日師不殊  
師者三世契  
●字治る

如目紋字位  
三百六十字  
一字助地生  
次教来師宗  
祖者一也  
師教ふ

事あるも  
くも移る  
●田今  
くも移る  
くも移る  
くも移る  
くも移る

親音為師者  
勢むる親者  
宝瓶納白骨  
持念誦經卷  
静性業義理  
如解寐澗張

宝冠戴鉢池  
臥戴父母骨  
朝早起洗  
夕星寐酒  
習讀不入意  
續千卷不復



つらきつら

つらきつら

◎長閑な天

つらきつら

つらきつら



つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

◎つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

◎つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら

つらきつら



冢後  
伊門三様  
兼仕々月乃  
かひ下配  
形ぬ  
◎良久知  
ふ水に流  
ふん念法  
静に入  
見色と如

不知妻之流  
浦に書ふ  
腰帯文不控  
至極好字文  
必致頑字位  
口恒浦経福  
又刺弓想夫  
列宅心織衣  
便寄心耕他  
け者人を  
文操油玉家  
能磨寒振筒  
又刺弓想夫

口彦中  
◎殊成也  
しお拂  
比と  
必後  
くり只今  
出納  
◎指布  
と

柳乃拂文虫  
松石張菜美  
古骨以膏美  
早玉指士位  
好字也師傳  
登之卷之周  
張儀浦新古  
飛卷浦史記  
伯莫九歲初  
宋史七十初  
智者後中者  
良者後中者





中入法を尋ね  
 存心するもふ  
 心は信の如く  
 心は信の如く

中入法を尋ね  
 存心するもふ  
 心は信の如く  
 心は信の如く

肉身志母海  
 成五体此分  
 身心恒若芳  
 家父母親育

肉身志母海  
 成五体此分  
 身心恒若芳  
 家父母親育

大不墮地獄  
 小不墮地獄  
 聖如獄中因  
 行如光音天

大不墮地獄  
 小不墮地獄  
 聖如獄中因  
 行如光音天



辰宵あせ也なり

也なり

◎後あとの中ちゆう也なり

養やしやう之の後あとの也なり

也なり

也なり

廣ひろ画え之の後あとの也なり

也なり

也なり

◎夜よありあり一ひと枝えだ

黄乳味わうにゅうみ教解きやうかい

教きやう蹄てい粮りやう毒どく子こ

海かい辯べん身しん身しん家か

目め和わ迷み也なり葉えつ

多た劫けつ地ち獄ごく

如ごと樹じゆ多た林りん枝えだ

象しやう體たい不ふ思し德とく

雙しやう更せい于よ山さん野や

善ぜん臨りん子こ江かう海かい

為な資し也なり也なり

内ない嗜し飲いん味み

煎せん也なり不ふ知ち悉しつ

如ごと樹じゆ多た林りん枝えだ

象しやう體たい不ふ思し德とく

如ごと樹じゆ多た林りん枝えだ

象しやう體たい不ふ思し德とく

如ごと神しん麻ま換かん草そう

天てん雷らい裂れつ其その成せい

買かい蛇じや吸しつ其その命めい

切せつ穴けつ得とく金きん金きん

汲きつ水すい得とく在ざい泉せん

深しん雪せつ中ちゆう拔はつ筆ひつ

王わう祥しやう欲よく叩くわう冰ひやう

面めん受じゆ打た也なり也なり

班はん婦ふ罵ま其その母ぼ

郭かく匡きやう為な春しん母ぼ

姜きやう尚しやう也なり也なり

五ご宗しゆう失しつ以い中ちゆう

五ご宗しゆう失しつ以い中ちゆう

五ご宗しゆう失しつ以い中ちゆう

五ご宗しゆう失しつ以い中ちゆう

五ご宗しゆう失しつ以い中ちゆう

五ご宗しゆう失しつ以い中ちゆう

五ご宗しゆう失しつ以い中ちゆう

也なり

也なり

也なり

也なり

也なり



くし今大業  
色  
●之行以度  
中入之海り也  
付江戸状先  
出いぬ者も  
形出来りて以  
海りか下ん  
ふぬ  
●奇羅来細

此凍と凍魚  
清法固支眼  
齒食成乾若  
体者養清宗  
虎前啼火害  
焉多来里埋  
愛子想盲父  
刑非来老母  
董平賣了目  
楊威念獨母  
形焉裏有云  
作救自化墓

くわああく娘  
方へるを録  
不大収仕息  
書あかも官布  
り札中上之巻  
中ら也  
●而極く去  
金客もねん  
仕交形居る  
寄りりり汁

松柏植化墓  
父母致孝類  
而全悉成純  
早三飲涅槃  
速了求善抗  
會者定辭若  
い多之人皆  
仏神靈勝也  
生死命もた  
如怪此不淨  
欲不飲安海  
忍可忍六道





此をうらぐ也  
ゆふを辱害  
万の系と面

口乳言入也  
後刻以美の  
在富てんん  
乃余の一飛  
以際等も下  
方へおまを

生者必滅悲  
朝生夕死矣  
此風易壞矣  
全北冥途窮  
只一世敗家  
更非併乃資  
壽命如浮塔  
此体如芭蕉  
後羅綿續  
黄金珠玉者  
業世業雜者  
友信電鐵者

唯現世名因  
壽命不消程  
身體不壞間  
歎遷化空乃  
怨大血刀者  
益苗於空乃  
彼身勢之變  
重死苦空之念  
切利摩尼殿  
大梵之卷圖  
須達之十德  
阿育之七寶



① 宜つれ中上具  
② 氣志度月  
③ 一心得  
④ 可布施

至貴お壽命  
彼打獄卒杖  
布施善提標  
財宝善提標  
可布施  
月支是月威  
龍帝投訪力  
人心可行施  
人在不惜財  
美人多寶藏  
及他布施財

① 可布施  
② 宜つれ中上具  
③ 氣志度月  
④ 一心得

可生海表心  
功德如大海  
得報如芥子  
早研黄金屑  
速結蓮華波  
龍將福王位  
然心施一人  
為已施諸人  
聚砂為塔人  
折花供佛衆  
一向信及力  
半信及力



天保十三年  
 同十四癸卯年  
 山崎久作著

東都北峯先生著  
**五經講釋** 全三十冊  
 江戸書林  
 龜井町 伊勢屋藤七 發行  
 藤屋宗兵衛

天保十三年  
 同十四癸卯年  
 山崎久作著

東都北峯先生著  
**五經講釋** 全三十冊  
 江戸書林  
 龜井町 伊勢屋藤七 發行  
 藤屋宗兵衛

本八町堀五丁目  
 伊勢屋藤七  
 發行

天保十三年  
 同十四癸卯年  
 山崎久作著

東都北峯先生著  
**五經講釋** 全三十冊  
 江戸書林  
 龜井町 伊勢屋藤七 發行  
 藤屋宗兵衛



